

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1329 2025/04/10 (THU)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)



未来は明るいか？

～ 明るい光は何処にあるか？ ～

歴史を半世紀単位で観ると

テレビドラマ「不適切にもほどがある」がヒットして、「そうだったよね」と頷いた人は多いと思います。

1970年代、就職したての頃を思い出してみると、「職員会議」はタバコの煙で会議室の空気が曇っていました。セクハラ・パワハラという言葉さえない時代ですから、お酒の席での下ネタは、言いたい放題。そして、保護者からも「先生、うちの子が悪さをしたときには、ぶち殴ってください」と言われたことも、一度や二度ではありません。

今、中居正広の「性暴力」をきっかけにフジテレビの構造的な問題が、明らかになりつつあります。そして、今後の展開は予想できませんが、第三者委員会報告の最後に示されているように、この問題で多くの社員が、労働組合に加盟して社内の異常な権力構造を、改革しようと立ち上がっていることが、希望の光であると言えます。

民主主義を知らない子どもたち

一方、民主主義の現状は、楽観できるものではありません。学校でも児童会、生徒会、自治会活動は、停滞しています。大学で考えるならば、高い学費でアルバイトしなければ、生活できない学生の多くは、自治会やサークル活動に参加する余力がありません。1969年入学時の学費は、月500円でした。すぐに倍化され1000円に。更に3倍化の3,000円/月となり、後はうなぎ上りの学費上昇となっています。

こうして、奨学金の返済という借金を抱えて社会人となる時代が、就職氷河期などの厳しい時代であった（当時の）若者たちにとって、政治や民主主義は何も得るもののないものとして映ったとしても、不思議ではありません。

その就職面接において、追い打ちをかけるようなハラスメントが追い打ちをかける、そんな経験で傷ついた多くの青年たちが現在の労働者の多数派となっています。

大国主導の世界秩序が崩壊し、新しい秩序がつけられつつある時代

最も、身近で劇的な出来事は、「核兵器禁止条約」の成立でしょう。「アメリカ第一」の窓から見てみると、何とも不思議なこの条約の成立でしたが、世界の動きはもはやG7だのG20だのという「先進国」（と呼ぶのがもはや無意味）、一部の大国によって、支配される時代が終わろうとしていることを示しています。現瞬間のトランプが行っている「関税戦争」という暴挙は、道理もなく必ず破綻するでしょう。新しい秩序づくりの始まりです。（村井 義幸）

の文蔵

▼日本でも、維新政治のメッキがボロボロに剥がれ掛かっています。橋元徹のしゃべり口や、論建に危険性を感じた人も少なくはありません▼その代表例が大阪都構想でした。その是非を問うとして維新は、住民投票をしかけました。その結果は、2015年、2020年と2回とも、僅差ではありましたが、否決されました▼2015年当時、橋元徹氏は、結果を受けて『構想』が間違っていたという事で「しょう」とのべました▼一部のメディアでは、「潔い」との評価もありましたが、民主政治を支える言葉としてはまちがっています。言うべきは「都構想は間違っていないかったが、その本意を伝えきれなかった」というべきです▼この主張の反民主的な内容は、選挙に勝てば、オーライテイを得たとする態度です。支持勢力には満額の対応をし、反対勢力には一切顧みることなしで良いのだと結論になって行きます▼首長は、反対派も含めての代表である、という最も基本的で大切な視点が抜け落ちており、権力を身内と賛成者のために使つてよいとする安倍政治と共通するものです。